

2018年度 第3回マージン検討会 議事録

日 時：2018年12月14日（金） 15:00～15:30

場 所：電力広域的運営推進機関(豊洲ビル)会議室B及び広域本番会議室(TV会議)

出席者：

坂原 淳史（北海道電力(株)送配電カンパニー工務部広域システムグループグループリーダー）
矢口 智 （東北電力(株)送配電カンパニー電力システム部給電グループ課長）
福元 直行（東京電力パワーグリッド(株)系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
中山 友輔（代理出席）(中部電力(株)電力ネットワークカンパニー系統運用部給電計画グループ副長）
山下 益功（北陸電力(株)送配電事業本部電力流通部系統運用チーム統括課長）
高間 康弘（代理出席）(関西電力(株)送配電カンパニー系統運用部給電計画グループマネージャー）
杉山 弘幸（中国電力(株)送配電カンパニー系統技術グループマネージャー）
正岡 寿夫（四国電力(株)送配電カンパニー系統運用部給電グループリーダー）
江口 貴之（代理出席）(九州電力(株)送配電カンパニー電力輸送本部電力品質グループ副長）

事務局

竹内 浩 （電力広域的運営推進機関 運用部長）
神田 光章（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループマネージャー）
奥山 孝幸（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

配布資料

- （資料1）2018年度 スケジュール・検討事項
- （資料2）翌年度以降分マージン算出にあたっての検討課題

議題 1：2018 年度 スケジュール・検討事項

事務局から資料 1 を説明の後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：資料 1 の 2 スライド目の課題検討というのは、具体的には資料 2 に記載の通り 2019 年度以降のマージン設定の考え方について検討していくということか。
- ：課題検討については資料 2 の通りである。具体的には、資料 2 のスライド 7 の下側のテキストボックスの「ただし、」以降で記載の通り、マージン設定実績等については引き続き確認を継続し、必要により考え方を変える。

議題 2：翌年度以降分マージン算出にあたっての検討課題

事務局から資料 2 を説明の後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：6 スライド目でスポット市場の分断状況の確認結果はどのように評価するのか。間接オークションの導入に合わせ、長期・年間計画段階から原則 0 とするなど、長期・年間計画のマージンの蓋然性を高める見直しを行った。スポットの分断自体は課題であると考えますが、今回の間接オークション導入に伴う見直しに関連する課題ではないのではないか。
間接送電権に向けて、分断実績を踏まえてある連系線を間接送電権の対象送電線に追加するというような議論を行うのであれば、このシートの意味はあるかと思う。
- ：このシートを載せている趣旨は、2 スライド目の通り「…系統利用へ与える影響等も踏まえ検討を行う」という整理であり、間接オークション導入後、直接系統利用に与える影響を見る上では、まずスポット取引の分断状況が適切と考えまとめたものである。
- ：資料 2 の 7 スライド目の 2019 年度以降のマージン設定の考え方について確認したい。「ほとんどの連系線において計画時点から大きな乖離がみられないことから、現状のマージン設定の考え方を継続する」という整理であるが、需給の状況によっては、結果として乖離が出る場合もあるかと考える。乖離が出れば必ず課題があつて、考え方の変更が必要ということになるのか。
- ：例えば中国四国間連系線は計画で過去の実績があるから 0～930MW としている。しかし、マージン設定実績を見れば乖離が出ているとすればその見直しを考えるという議論もあり得ると考える。現状、それは一部の連系線であることから、実績の確認期間を継続し、必要な場合は見直すことを検討することを前提に、これまでの考え方を継続する方向で検討するという趣旨で資料にまとめたものである。
- ：乖離があつたから即見直しという訳ではなく、状況を踏まえ検討の上、今のマージン設定が過剰だと分かった場合には見直すという事ではないか。よって、現時点では資料 2 に記載の通りで良いと考える。
- ：この整理を変更すべきという意見を述べたものではなく、考え方を理解する観点から確認させてもらったものである。

以上